

令和4年度 学校評価書

常葉大学附属とこは幼稚園

園長 池田 美穂

1 経営の重点にかかわること

学校教育目標 心豊かでたくましい子

重点目標 自ら周りの環境に関わろうとする子

学年	評価項目（各学年の指導・取組の重点等）	自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
0歳児	<p>○生活リズムを大切にし、安心感の中で過ごす</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な保育教諭に思いや欲求を受け止めてもらいながら、愛着関係を築く。 安心安全な環境の中で、伸び伸びと過ごす。 身の回りの事に興味関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の月齢や生活経験に合わせて、丁寧にかかわった。職員、保護者との連携を密にし、情報を共有することで一人一人が安心安定して過ごせるようになった。 温かく見守られた中で、お気に入りの玩具や遊具を見つけ伸び伸びと遊ぶ姿が見られた。 個々の発達や機嫌に合わせて、おもちゃの片付けやエプロンの片付けなど身の回りの事に興味を持てるようにした。喜んで取り組む姿が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員が情報共有をして連携をとることで子ども達と丁寧にかかわることができていた。 安心安全な環境で好きな遊びをして伸び伸びと過ごすことはとても大切である。 	A
1歳児	<p>○自分の好きな遊びを見つけ、その遊びを繰り返し楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心安全な環境の中で、伸び伸びと遊ぶ。 生活の中で、見る、触れる、真似る等の経験をし、人や物への関心を広げる。 身の回りの事に興味を持ち、少しずつ自分でやってみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心した園生活が送れるよう、個々の気持ちに寄り添いながら関わる事で自分の好きな遊びを見付けて遊ぶ姿が見られるようになる。また、友達にも興味を持つようになってきたため、保育教諭と一緒に遊んだり、子ども同士やり取りを温かく見守ったりしてきた。 生活の中で子ども達の「やってみたい」という思いを大事にし、励ましたり、やり方を伝えたりする事で、身の回りの事に興味を持って自分でやろうとする姿も出てきた。 月齢や家庭状況によって発達に個人差が大きい。その為、一人一人に合わせた援助を意識してきた。また、職員間で話し合いをする事で意識の共有をし、連携が取れるようにしてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員同士が子ども達の個人差が大きいことを意識し、個々に寄り添いながら保育していた。他人を認識し、自我も芽生えてくる時期なので個人差に注目して保育している 	A
2歳児	<p>○保育教諭や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して生活を送る中で、身支度や遊び等保育教諭や友達と一緒にやってみようとする。 保育教諭や友達とのかかわりの中で、一緒に過ごしたり遊んだりする心地よさや楽しさを感じる。 好きな遊びを見つけて伸び伸びと自分なりに楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して生活出来るように、なるべく1対1で丁寧にかかわるように心がけた。また、自分で出来ることが増えるようにやり方を伝えると共に、出来たことに対して沢山褒め、自信につながるように心掛けた。3学期には「自分でやる！」と張り切って生活している。 一緒に遊びながら、近くで遊ぶ子ども達の気持ちを代弁し、交流が持てる様にしてきた。次第に気の合う友達の様子に興味を示し、一緒に遊ぶようになると共に、みんなで鬼ごっこやかくれんぼなどの集団遊びの楽しさを味わっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で一つ一つできることが増え、それを保育者に褒められることでさらに自信がつき、意欲に繋がっていると思う。 集団遊びの中で友達と一緒に楽しむことが増え、幼稚園生活が楽しくなっている。 	A

満 3 歳 児	<p>○保育教諭や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友達とかかわりながら、安定感を持って共に生活する心地よさを感じる。 ・身の回りの事を保育教諭や友達と一緒にやってみようとする。 ・好きな遊びを見つけて伸び伸びと自分なりに楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時期が個々によって異なる為、その都度丁寧に生活習慣の流れを伝えながら、かかわるようにした。それぞれの育ちや良さを認め、褒める事で、自分でやってみようとする気持ちにつながり、身の回りの始末が自分で出来るようになっていった。 ・好きな遊びや場所、友達と一緒に過ごす心地良さを見つけられる様に、保育教諭が遊びに誘い、一緒に楽しみながら、子ども達との関係を深めていった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の良さを認め褒めたり励ますことで自分のことは自分でできるようになっている。 ・2歳児とかかわり合いをもてる環境である。 	A
3 歳 児	<p>○友達や保育教諭と一緒に楽しく園生活を送る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境（人的・物的）に関心を持ちながら、遊びを楽しみ積極的にかかわる ・集団生活に必要な約束や習慣を知り自分で行おうとする（挨拶、身支度、食事、排泄、手洗い、着替え等） ・好きな遊びや安心できる場所を見つけて楽しく遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友達とかかわることで信頼関係ができ、安心して遊べるようになってきた。 ・自分の気持ちを言葉で伝えることができるようになってきた。また、相手の思いに気付く言葉で表現する事も少しずつできるようになっている。 ・身支度や着替え、排泄等、個人差が大きかった為、保育教諭と一緒に進め、丁寧にとかかわり援助しながら少しずつ習慣になり、自分で行なえるようになった。 ・安心できる居場所を作れるよう、魅力的なコーナーや玩具を用意した。ゆとりを持って生活できるようにし、遊べる時間を十分に確保する事で主体的に遊びを楽しめるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭との信頼関係の中で基本的な生活習慣が少しずつ身についた。 ・個人差に配慮し、丁寧にとかかわっていくことが子ども達の安心感を生んでいる。 	A
4 歳 児	<p>○友達と夢中になって遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びや生活の中で、友達や保育教諭とかかわったり、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・身近な自然に興味を持ったり、気付いたり、考えたりしながら遊びや生活に取り入れる。 ・園生活の中で自分の思いを言葉や態度で伝えたり、相手の思いに気付いたりして友達との関わりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で遊ぶ中で、自分と友達の思いの違いに気づけるようになり、お互いに譲り合いながら遊べるようになった。また、相談し合いながら遊ぶ事で、深まりも出てきている。 ・ルールのある遊び（鬼ごっこ、しっぽとり、椅子取りゲーム等）を楽しめるようになった。友達とルールを確認したり、お互いに守ったりする事でより楽しく遊べるようになった。 ・アオムシの成長を凶鑑と見比べてみたり、日々の変化を楽しんだりする姿が見られた。野菜の栽培でも毎日の水やりの中で変化に気付いたり、収穫時期を楽しみにしたりしていた。また、自分達で育てたという事もあり苦手意識があった子も食べられるようになった。 ・生活をしている中で友達や保育教諭に提案をしたり、困っている事を相談したりする事が少しずつ出来るようになってきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の子どもの気付きや疑問をみんなに広げ、粘り強く追及していく様子が見られた。思いの違いに気付き、譲り合ったり提案したりすることが5歳児の話し合いの基礎になっている。 	A
5 歳 児	<p>○遊びを通して協同性を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合い、協力したり、工夫したりして、最後までやり遂げようとする気持ちを持つ。 ・自分達で遊びや生活を主体的に進め、就学に向けて自覚や自信を持つ。 ・自分の気持ちを表現しながら、友達の気持ちを分かろうとし、思いやりの気持ちを持つ。 ・自然に対する興味を深め、好奇心や探求心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の遊びや活動を通してかかわりを深めていった。そうした中で、皆で考えを出し合い、話し合いの時間を設けるサークルタイムを活用する事で、友達の考えに気付き、新しい発見や、仲間意識を高めるきっかけになっていった。 ・日々の生活を通して子ども達自身の気付きや変化の様子を捉え、励まし、褒め、その姿を周りに共有していく事で子ども達の自信に繋がり、良い波紋が広がっていった。 ・遊びや生活の中で、互いの気持ちがぶつかり合ったり、自分の思いを優先し過ぎたりしてトラブルになる時があった。その事に白黒つける判断をするのではなく、互いの気持ちに折り合いが付けられるような話し合いを大切にしていた。次第に、友達の気持ちに目を向けてかかわろうとする姿が見られるようになった。 ・飼育当番を通して、動物の命に対する思いやりの気持ちをもてるようになった。また、草花や季節の変化を取り入れた遊びを展開してきた事で興味関心が広がった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭が、協働性の育ちの中で、皆で実現する経験が大切だと考え、子ども達とかかわっている姿が見られた。 ・サークルタイムでは自分の考えを自分の言葉で発言することで周りから認められ、自信を持ち自分を好きになっていくいい機会である。 	A

2 各指導部等にかかわること

評価項目（各指導部等のねらい・取組等）		自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
1 安全・ 保健 管理	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な場面を想定した避難訓練や非常食訓練等を定期的に実施し、子どもの安全確認や意識向上に努める。 ○地域、家庭との保健に関する情報交換を綿密に行い、流行性の疾病情報の開示を随時行う。 ○食物アレルギー等、子ども一人一人の健康に配慮した保健指導を行い、給食業者との連携を図っていく。 ○定期的な遊具の点検と園庭の安全管理を行う。 ○コロナウイルスの感染対策を引き続き行い、感染予防に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○洪水、液状化訓練も定着してきた。各場所における確認は担当を決めて子どもの見落としがないよう確実にチェックしていく様にした。次年度に向けて、訓練チェック表の形式の見直しも行った。 ○コロナウイルス等の感染状況により、行事の内容の見直しを行い、国からの通知に沿って迅速に変更していくなど対応を行っていった。 ○遊具、園設備の点検を毎日の日直日誌で全職員が目視確認した。緊急性の高いものから修理をお願いしていく様にした。 ○3歳児は親子で歯磨き、交通安全指導を行ったり5歳児は就学前に傘を使った交通安全教室を行ったりするなど、各年齢に応じた健康、安全に関する指導で意識を高められる様にした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練項目の見直しや、やってみて気付くことを確認し、共有することでいざという時に備えている。 ・防災や日常の安全管理への取り組みが定着している。 ・コロナウイルス感染状況に合わせて安全を第一に考えながら子どもたちの気持ちも大切にしながら園行事を行っていた。 	A
2 運営 組織	<ul style="list-style-type: none"> ○職員同士の信頼・連携により、同じチームとしての機能を十分に発揮し、組織力を向上する。 ・ICTを取り入れ、今までより更にスムーズ且つ迅速な情報共有に努める。 ○園全体で周知しておくことや検討が必要なことについて、計画的に効率よく会議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で連携がとれるよう、朝礼、夕礼を毎日必ず行った。その際に些細なことでも報告し、全員で共有できるようにした。 ・手紙を紙媒体からメール配信にすることで印刷したり折ったりする手間がなくなった。また、記録を従来の手書きに加え、ブログを活用することで時短に努めた。 ・四者会、教務会、そして職員会議の順に議題等の話し合いをし、確認を重ねていくことで会議をスムーズに進行することができた。 ・ICTの活用が未達成な部分が多いため来年度はもっと取り入れられるよう具体的な方法を考えていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝礼、夕礼で些細なことも共有し合うことで大きな事故を防ぐよう心掛けていた。 ・ICTの導入にも積極的にあり継続的に取り組んでいる。 ・毎日の記録が時短できるようなポジティブに試行錯誤している。 	A
3 研 修	<ul style="list-style-type: none"> ○重点目標「自ら周囲にかかわろうとする子」を目指し園内研修に取り組む。多面的に子どもを見取り、次の保育にも活かすことが出来る記録の取り方について、共に考え、共有し、実践していく。 ○たちばな幼稚園との合同研修会や外部研修会等に意欲的に参加し、スキルアップを図るとともに、保育の質の向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○園内研修では、記録について様々な視点で話し合いを行なった。ブログの内容も見直し、子どもの育ちも入れるようにした事で、記録への活用に繋がった。毎月限られた時間での研修であったが、共有した事を実践していった。 ○たちばな幼稚園との合同研修会は、お互いの保育を見た後、それぞれの良さを取り入れた事も含めて話し合いを行なう事が出来た。 ○外部研修への参加へも意欲的に参加し、自己研鑽の機会となった。保育の質の向上の為に、職員間での共有を今後もっと図っていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の共有、研修で学んだことの共有等職員の「同僚にかかわろう」という姿勢が見られた。 ・研修に積極的に参加し新しい視点を取り入れることでより質の高い保育の維持に努めていた。 	A

4 家庭・地域との連携	<p>○各家庭に保育の取り組みをわかりやすく伝えると共に、保護者の声に耳を傾け信頼関係を築いていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは、保護者のみが見られる鍵付きの項目を作った。園行事への取り組みの様子や日常の姿からの育ちを丁寧に伝えられるよう、更新回数を増やし、保護者理解に繋がれるように工夫する。 ・気になる子に対して、園での姿をこまめに伝えたり特別支援コーディネーター同席で面談を行ったりする。その中で、子どもにとって過ごしやすい環境を保護者と一緒に考え、場合によっては相談機関へと繋げていく。 ・「とことこクラブ」の開催日程を昨年度より増やし、各回工夫をし、未就園児が親子で楽しいひと時を味わえる場を提供する。 	<p>○保護者への発信を意識したホームページ掲載内容となるよう工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍵付きの項目を作った事で、発信の頻度を上げられ、より保育の取り組みをわかりやすく伝えることが出来た。 ・保護者アンケートからも、発信に満足しているとの声を昨年度よりも多くいただいた。 ・一般の方が見られる項目で写真の掲載が、予定していたよりも行えなかった。来年度はもっと行っていきたい。 <p>○気になる子の保護者に対し、園での姿を丁寧に伝える事を心掛け、保護者と療育施設と連携する事が出来ていた。</p> <p>○「とことこクラブ」への参加者は、毎回定員より多くの問い合わせをいただき、多くの方に遊びに来てもらった。来年度は、より多くの方に家族での遊びの場を提供すると同時に幼稚園を知っていただけるよう、土曜日に開催したり、園内見学の機会を設けたりする等内容の充実を更に図っていこうと考えている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログの発信頻度を上げる工夫（保護者用と一般用）等、地道に保護者の声に応えようとする姿勢が見られた。 ・ホームページや園の入り口は卒園生や多くの方たちが見ているので今後も園の情報の発信を期待している。 	A
5 常葉大学内連携	<p>○たちばな幼稚園との研修や交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両園合同研修会を行い、両園の保育を見合う。その中で気づきを保育に取り入れたり情報交換をしたりすることによって子ども理解を深め、質の高い保育を目指す。 <p>○橘小学校との研修や交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にスタートカリキュラム、アプローチプログラムについて幼小で情報交換、研修、学校訪問、交流等をし、理解を深める。 <p>○中学、高校、短期大学部、大学の実習生受け入れやパイプ強化。</p> <p>○大学、高校等での授業を行い、育成に携わる。</p> <p>○短期大学部、保育学部との共同研究の推進。</p> <p>○他学校施設の活用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視点をしっかり持って、研修前にたちばな幼稚園の保育を見て、それを踏まえより深い話し合いと、すぐ保育に活かしていける研修会を行う事ができた。全4回で、今年度からの反省を活かし、次年度の職員の主体的な学びを目指した研修の方向性も両園で話し合う事が出来た。 ・橘小学校と年度初めに打ち合わせをしたものの、なかなかすべてを実現することはできなかったが、6月には、5歳児が校舎を見学したり、1年生と交流をさせていただく等子ども達の小学校への憧れや期待を高める活動をさせてもらう事ができた。 ・今年度も高校、短大、保育学部、こども健康学科、看護科と、たくさんの学生を受け入れさせていただきました。初めて保育実習の学生を受け入れ、共に学ぶ場とさせていただいた。 ・新型コロナや感染症への配慮をまだまだしていた1年だったが、少しずつ外部との連携や共有を以前のように出来る様になっていると感じているが、もう少し積極的に計画的に行えたのではないかなと思える所もある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で制限がある中でも幼小連携の取り組みに実直に向き合い、できるところから実践していこうという努力が見られる。 ・今後も常葉グループのメリットを生かしてお互いが成長できるよう連携してほしい。 	A

*A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取組が不十分である